

有限会社 ミスティックプランニング



● キャンピングカーの製作、販売

- 代表者名 代表取締役 佐藤 正
- 設立年月日 1991年(平成3年)
- 所在地 〒400-0124 山梨県甲斐市中下条628-3
- TEL 055-277-4713
- FAX 055-277-4726
- E-Mail info@mystic.ne.jp
- URL http://www.mystic.ne.jp
- 業 種 輸送機械器具製造業
- 資本金額 300万円 ■ 従業員数 25人

インタビュー



企画開発部 部長
松井 哲也

テーマ

積載型キャンパーの生産プロセス改善による高品質なキャンピングカーの提供

積載型キャンパーの車体の軽量化と強度の維持に不可欠な生産プロセスを、新設備の導入により改善。安全性確保に直結する独自工法のレベルアップや部品の内製化を進め、デザイン性と機能性を追求した高品質のキャンピングカーを実現した。



キャンピングカーといえば車の中での寝泊まりはもちろん、旅先でもいつもの暮らしのように快適な時間を過ごせる憧れの乗り物だが、高額な費用や維持費、その大きさからも所有するのは難しいという人が多い。そんな中、近ごろは手頃な価格で気軽に所有できる軽自動車を使ったキャンピングカーが人気を集めている。

国内でも数少ないオリジナルのキャンピングカーを生産しているミスティックプランニングも、軽自動車のキャンピングカーを生産している。同社は自動車に着脱可能なキャビンを搭載した「積載型キャンパー」という日本で唯一のユニークな技術を持っていて、その技術を活かして軽自動車にキャビンを搭載した「軽キャンパー」を製作。普段はキャビンを外して仕事や日常の足として使い、休日はキャビンをつけてキャンピングカーとして使えるという優れもので、その手軽さや維持費の安さもあり、生産すればすぐに売れてしまう

ミスティックプランニング独自の「軽キャンパー」。キャンピングは自立するので駐車場にそのまま置いておけて、災害時には安全な場所に移して避難所としても使える

ほどの人気を集めている。

企画開発部の松井哲也部長は「新しい車に買い替えてもキャビンが引き続き使用できるのは当社の軽キャンパーならではの魅力です。メンテナンスすれば20～30年は使えるので、長く楽しんでもらえます」と自信を見せる。

そんな軽キャンパーをはじめ、同社が製作しているキャンピングカーはどれも高い信頼と支持を得ている。それ

には大きな理由がある。そのひとつが同社がこだわり続けている安全性だ。

一般的にキャンピングカーは木製のキャンパーが主流で、車体を少しでも軽くするためにFRPなどの耐久性のないプラスチック樹脂を使うメーカーもあるが、事故が起きた場合にキャビン部分が跡形もなく吹き飛んでしまうことも少なくない。

同社のキャンピングカーは、FRPよりも軽いのに丈夫なアルミフレームを使用。アルミで作った細かい骨組みを組み合わせ、面でしっかりと支える独自の「ボディパス工法」を採用し、骨組みそのものの耐久性を強化している。

フレームづくりではアルミの小さいパーツをいくつも溶接して接合するが、アルミ溶接は不活性ガスを噴出しながらの特殊な溶接が必要で、温度管理など熟練した技術が求められ、品質の安定化と作業の効率化が課題だった。

安全性にこだわり、さらなる高みをめざす



新しい溶接装置の導入により、アルミフレーム製作の高品質化と効率化を図ることに成功した

今回、同社はアルミフレーム溶接装置2台を導入。新装置は溶接棒の先端に形成される溶滴が必要な分だけ溶けて滑らかに表面にのるので質の高い溶接ができ、また最適な溶接条件を記録するメモリー機能もあるので、いつでも熟練者のスキルの再現が可能となった。

これにより、溶けた金属が飛散して粒状に固まるスパッタ数は従来比31%減、破碎の原因ともなる溶接金属内のガスによって生じる空洞のブローホール数は従来比54%減となり、品質の安定化を実現。また2台を同時に使って突合せ溶接を行うことで、歪みやねじれ、曲がり変形を最低限に抑えることができ、より高品質なフレーム製作が可能になった。

さらに今回、スーパープラズマ切断機も導入。同社では安全性向上のために後輪のスプリングとフレームの間に左右それぞれ独立したエアサス

ペンションを取り付けているが、このエアサспенションを支える厚い鋼材を切り出すには、あらかじめ高速切断機の刃が入るスペースとしてドリルで10～20ヵ所穴を開ける必要があった。しかしスーパープラズマ切断機ではそのまま切り出しができるので、大幅な作業時間の短縮が実現。加工精度も大きくアップした。

もうひとつ、同社のキャンピングカーの人気の理由がある。それはキャンパーの内装デザインだ。他社では内装は既製品を入れ込むのが一般的だが、同社はニーズに合わせて外注し、さらに配置などに応じて一度分解して裁断し、組み立て直してよりニーズに沿ったものになっている。

しかし外注し、さらに組み立て直すのは時間や手間がかかることから、今回、立体的に木材を削り込むことができる軸傾斜横切盤を導入。寸法直しは分解せずにそのまま加工することができるようになり、さらに家具の内製化も可能になった。



アルミを使ったフレームづくりから組み立てているのは国内で同社だけ

高い支持を得ている理由が、現場で見えた



今回導入した軸傾斜横切盤、内装家具の製作の効率化とデザイン性がアップした

松井部長は「アルミを使ってフレームからつくりあげている企業は国内で当社だけです。手間と時間、技術が必要ですが、それだけ高い安全性能を誇っています。今回新たな設備を導入したことで、さらに安全性を高めることができました」と胸を張る。新設備の導入は、楽しむことが目的のキャンピングカーだからこそ、心から楽しんでもらうために安全を第一に考えるという同社の姿勢そのものなのだ。

今後は新設備を活かしてさらなる高品質化、効率化を進め、キャンピングカーの普及を図っていくとともに、レンタルキャンピングカーも開始し、インバウンド向けの車両の貸し出しにも取り組んでいく計画だ。

「アメリカやヨーロッパに比べて日本のキャンピングカーの保有台数は極端に少ないですが、ライフスタイルの変化に伴い、今後は需要の伸びが期待できます。多くの方にキャンピングカーの楽しさを知ってもらい、所有する喜びを感じてもらえるよう、これからも安全でデザイン性の高いキャンピングカーを製作していきたい」と松井部長は目を輝かせた。

話を伺った後、社内を巡って製作現場を見せてもらおうと、溶接作業に取り組んでいる人も、内装の仕上げをしている人も、働いているすべての人がいい表情で仕事に打ち込んでいた。それは確固たる想いを持ってものづくりに取り組んでいる自信に満ちた表情であり、それこそがミスティックプランニングが高い支持を得ている証なのだろう。



凝った造りの内装はミスティックプランニングならではの